

次に、福岡市初めての施設
一体型小中連携校である照葉
小中学校を視察研修。小中學
校統括の教頭先生より説明を
受け、その後施設内を案内し
ていただきました。この学校
は先ず、平成19年4月に小学
校が開校され、翌20年4月に
中学校の開校となつたそうで、
その一年のずれがかえつて教
育現場に於ては、小中連携が
スマーズにいつて幸いであつ
たとの事でした。

「今後の課題」、小中連携教育に対応できるよう更なる教職員の理解と養成が求められる。児童と生徒が一緒に施設で学ぶという事から「性」についての問題には最大限の注意をしていかなければならぬとの事でした。

厚生常任委員会所管事務調査 研修報告

研修報告書

ス形式の構造物は目を見張る程の物であつた。

の歴史文化遺産の保存と観光資源としての活用に思いを馳せ2日間の視察研修を終えました。

ながら、経営改善に取り組んでいます。全部適用のメリツトとしては、経営責任が明確になるということ、職員の

「教育活動の特徴」として、小中学校の教職員が連携して教育活動を編成できる（例えば、中学校の専門性を活用した教材の共同研究、小学校の教員による部活動の指導など）又、学級担任制から教科制への潤らかな移行による中一ギヤップの解消など。

2日目、歴史遺産と観光
結びつきについて、飯塚市に
ある復旧された嘉穂劇場を視
察研修。大正十年株式会社由
座が設立、その後火災、台
風による倒壊、昭和6年建替
えられたが平成15年の九州北
部豪雨による舞台上まで浸水
という被害に遭つたが、何と
か復旧をと願う地域住民、企
業等の支援でNPO法人設立
平成18年、国の有形文化財登
録。回り舞台の大きさ、トヨ

福岡市役所での研修

至るまでの経過・現状並びに医師確保の具体的な取り組み等について観察を行いました。当病院は平成16年3月31日市町村合併により、上天草市立上天草総合病院となり、現在一般病床数が149床、療養病床数が46の全部で195床で診療科目は、内科・外科・整形外科・産婦人科・小

たとの事でした。

「教育活動の特徴」として、小中学校的教職員が連携して教育活動を編成できる（例えば、中学校の専門性を活用した教材の共同研究 小学校の教員による部活動の指導など）又、学級担任制から教科制への潤らかな移行による中

察研修。大正十年株式会社中座が設立、その後、火災、台風による倒壊、昭和6年建替えられたが平成15年の九州北部豪雨による舞台上まで浸水という被害に遭つたが、何とか復旧をと願う地域住民、企業等の支援でNPO法人設立、平成18年、国の有形文化財登

厚生常任委員会では、去る7月15日と16日の2日間の日程で、上天草市龍ヶ岳町の上天草総合病院と同市松島町の上天草市養護老人ホーム『和光園』の両施設を視察しました。今回の視察目的は県内自治体病院ではじめて導入された地方公営企業法全部適用の

次に、福岡市初めての施設
一体型小中連携校である照葉
小中学校を視察研修。小中学
校統括の教頭先生より説明を
受け、その後施設内を案内し
ていただきました。この学校
は先ず、平成19年4月に小学
校が開校され、翌20年4月に
中学校の開校となつたそうで、
その一年のずれがかえつて教
育現場に於ては、小中連携が
スムーズにいつつ幸いであつ
た。

「今後の課題」、小中連携
教育に対応できるよう更なる
教職員の理解と養成が求めら
れる。児童と生徒が一緒の施
設で学ぶという事から「性」
についての問題には最大限の
注意をしていかなければなら
ないとの事でした。

2日目、歴史遺産と観光の
結びつきについて、飯塚市に
ある復旧された嘉穂劇場を視
程の物であつた。

次に、「炭坑王」伊藤伝衛
門邸視察研修。改めて我が町

厚 生常任委員会

一部が適用されていましたが、平成20年4月1日から組織や職員の身分取り扱い等の規定を含む全部適用に踏み切り、市町部局から独立。当病院では、病院事業管理者を設置し人事や勤務条件に関する広範な権限が与えられたことにより、病院経営の自主性を高め、職員の意識改革を進め

児科等合わせて23科からなり
職員数が本年4月1日現在で
正職員200人、臨時職員77
人の合計277人で、その内
正職員の医師が19人と臨時職
員の医師が2人合わせて21人
体制で上天草地域の中核病院
として稼動しています。

う財政目標に向かって着実に成果を上げています。なお、全部適用となつて4年目ですが、一般会計からの繰出金は、年間2億7千万から2億8千万円となつていて、医師の確保については、熊大等への医局への派遣依頼やホームページによる医師募集、あるいは民間医師の紹介会社との契

当病院では、全部適用の導入とともに、経営健全化への取り組みが進められていますが、すでに平成19年・20年・21年度の決算状況は6、440万円・7、040万円・5、660万円と3年連続で純利益を上げており、従前の赤字体質からの脱却とともに、5年